

<今日の説教のポイント エフェソの信徒への手紙6章1～9節>  
子と親、奴隷と主人のあるべき姿。そこから教えられることは？

①子供と親が逆転することがある！ どういうこと？

「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい」(1)。ここで「主に結ばれている者として」は、前の口語訳聖書では「主にあって」と訳されていました。「主にあって」両親に従うとは、主イエス・キリストと出会って主を信じる者となった者が、主が示された姿で、また主が教えられたことを思いながら両親に従うということです。ただ「生みの親なのだから、どんな親であっても、何を言われても従いなさい」というのではないのです。主イエスの救いを知ったことによって、親と子が逆転することがあり得ます。どうしようもない親を恨むのではなく、主を通して神様の愛を知った子供の方が親にその神様を教える立場になる逆転です。この時、もう親に対する恨みは消えているはずです。

②奴隷と主人についての教え 今の時代には関係ない？ 否！

「今は、格差社会、経済格差から来る第3の奴隷制の時代が訪れている」という意見を聞きました。今日の箇所第1の奴隷制度の時代は、第2の人種差別による黒人奴隷制度とは違い、戦争や貧困などによる状況の中で奴隷となるもので、解放奴隷として引き立てられる場合もあるものでした。今の時代と似た面があるように思います。そこで、9節の言葉が重要になって来ます。「主人たち、同じように奴隷を扱いなさい。彼らを脅すのはやめなさい。あなたがたも知っているとおりに、彼らにもあなたがたにも同じ主人が天におられ、人を分け隔てなさらないのです」。神様の前に分け隔てなく造られたはずの人間がそうでない扱いを受けることを神様が放っておかれるはずがありません。この奴隷と主人の箇所は今こそ聞かれるべき箇所の一つのように思えます。

③主に倣い、仕え、従って生きればよい そこにある主の平安

妻と夫、子と親、奴隷と主人、一連の教えの中で共通して語られているテーマがあります。「仕えなさい、従いなさい」です。何にでも仕えるのではなく、イエス様から教えられたこの姿で「善いことを行う」ために仕えて生きる。その時、主の平安が私たちを包むのです！